

おさえたい
おきたい

「心」への対応

— 診療室で行う歯科心身医療入門 —



北海道医療大学
歯学部口腔構造・機能発育学
系保健衛生学分野 准教授
松岡 紘史 (公認心理師)

② 歯科治療を怖がる患者さん

はじめに

「心」への対応が必要な歯科医療、「歯科心身医療」にかかわる患者さんについて、6回にわたって概説する本シリーズの第2回では、歯科治療を恐れてしまう患者さんを取り上げます。

皆さんは、歯科診療場面や歯科治療に恐怖を感じる人への対応に苦勞したことはありませんか。歯科診療場面や歯科治療を怖がる患者さんは世界的にも非常に多く、10%程度の人が歯科に対する非常に強い恐怖を抱いているという報告もあります。歯科に恐怖を抱く患者さんは一見すると同じ悩みを抱えているように見えますが、恐怖を抱く背景にはさまざまな理由が存在します。



【 歯科自体が苦手な人 】

歯科治療に恐怖を抱く患者さんの多くは、ほかの事柄が原因で恐怖が生じるのではなく、歯科の治療場面そのものを怖がっています。患者さんの恐怖の広がりにはさまざまで、歯科治療の特定の場面が苦手な人もいれば、あらゆる状況が苦手な人もいます。恐怖の程度が非常に強い患者さんの場合は、抜歯や麻酔などの治療行為だけでなく、待合室にいることや予約の電話、歯科クリニックのHPを閲覧することでさえ困難なこともあります。

こうした歯科治療そのものに恐怖を抱いている人は、精神疾患における「限局性恐怖症」という疾患に分類されます。限局性恐怖症は特定の状況や対象に強い恐怖を抱くという疾患です。こうした患者さんは歯科治療は苦手ですが、日常生活においてほかの場面では苦手さを感じることが少ないのが特徴です。

また、限局性恐怖症の患者さんには、注射が苦手な「注射恐怖」の患者さんもいます。歯科治療には、注射を用いた医療行為を伴うことがあるため、こうした注射恐怖の患者さんも、歯科治療に恐怖を感じる可能性があります。

表 1 歯科恐怖および関連する疾患向けの尺度

疾患および尺度名	項目数	カットオフポイント
● 歯科恐怖		
Modified Dental Anxiety Scale 日本語版 (MDAS J)	5	19 点*
Dental Fear Survey (DFS)	20	53 点*
● 注射恐怖		
多面的注射恐怖尺度 (Multidimensional Injection Fear Scale : MIFS)	16	設定なし
● パニック症		
自己記入式パニック障害重症度評価スケール (Panic Disorder Severity Scale : PDSS)	7	中等症 : 10 点 重症 : 15 点
● 社交不安症		
Liebowitz Social Anxiety Scale (LSAS)	24	44 点
● 自閉スペクトラム症		
Autism Spectrum Quotient (AQ)	50	33 点

*海外版でのカットオフポイント

「歯科恐怖」および「注射恐怖」を測定する尺度にはさまざまなものがあります(表 1)。歯科恐怖を測定する尺度は、「Dental Anxiety Scale (DAS)」や「Dental Fear Survey (DFS)」が有名です。それぞれの尺度では、患者さんの恐怖の程度が病気とよべるレベルなのかを見きわめるためのカットオフポイントが設定されています。こうしたツールを用いて、患者さんの症状の強さを簡単に把握することが可能となります。

不安の問題が背景にある人

歯科に恐怖を抱く患者さんのなかには、歯科以外にも苦手さを抱いている人もいます。その 1 つが、精神疾患が原因となり歯科診療場面に恐怖を感じる患者さんです。

たとえば、「パニック症」がそれにあたります。パニック症は、身体的な問題はないのに突然、

動悸、呼吸困難などの不安発作を繰り返し、発作への不安から外出などが制限される疾患です(表 2)。パニック症では、不安の発作が起こることへの恐怖から、乗り物や人が集まる場所など多くの状況に苦手を感じやすくなります。そのほかにも、身体が固定されるような状況が苦手な、歯科ユニットで治療を受けることに恐怖を抱く人も多くいます。パニック症を発見するための評価ツールとしては、「自己記入式パニック障害重症度評価スケール (Panic Disorder Severity Scale : PDSS, 表 1)」が利用されます。

歯科治療に恐怖をいだく精神疾患の 2 つ目は、「社交不安症」です。社交不安症は、人前で恥をかいたり、恥ずかしい思いをすることを恐れるあまり、人から注目を浴びるかもしれない状況をすべて避けてしまう疾患です(表 3)。社交不安症では、人前で話したり、食べたり、飲んだり、字を書いたりする状況に苦手を感じや

表2 パニック症の特徴

- 次に表す不安症状が突然生じる
 - ・ 心臓の動悸
 - ・ 発汗
 - ・ 震え
 - ・ 窒息感
 - ・ 息切れ感
 - ・ 胸の不快感
 - ・ お腹の不快感
 - ・ めまい感
 - ・ 寒気
 - ・ 感覚麻痺
 - ・ 現実感消失
 - ・ どうかなってしまう感覚
 - ・ 死ぬことへの恐怖
- 不安発作が起こることを心配する
- 不安発作を生じる状況避ける



表3 社交不安症の特徴

- 他者から注目される可能性がある次に表す状況に強い恐怖を抱く

(1) 社交的
やりとり：雑談
やよく知らない
人と会う



(2) 見られる
こと：食べた
り、飲んだり
すること



(3) 他の人の
前で何かの動作
をすること：ス
ピーチを行う



- 他者から注目されることで、否定的に評価されることを恐れている
- 他者から注目される状況ではつねに恐怖が生じ、そのためにその状況避けてしまう

すくなります。そのため、つねに歯科医療スタッフから注目を受ける歯科治療場面に苦しさを感じる患者さんも多くいます。社交不安症を発見するための評価ツールとしては、「Liebowitz Social Anxiety Scale (LSAS, 表1)」が利用されます。

感覚過敏がある人

歯科診療中に体験するさまざまな感覚が不快であるために、歯科治療に強く拒否反応を示す患者さんがいます。感覚の不快さの原因には、さまざまな感覚過敏が影響している場合があ

表4 自閉スペクトラム症の特徴

1. 社会的コミュニケーションの問題
 - (1) 他の人とかかわり、考えや感情を共有することの難しさ：会話にいつどうやって参加すればよいのかわからない
 - (2) 非言語的コミュニケーションの難しさ：視線を合わせるが少ない
 - (3) 人間関係を発達・維持することの難しさ：友達といっしょに遊ばない
2. 限局された行動・興味の問題
 - (1) 同じ行動の繰り返し：おもちゃを一列に並べるような単調な行動を繰り返す
 - (2) 変化が生じることへの苦手さ：日常の小さな変化にも大きな苦痛を感じる
 - (3) 極度に強い興味の偏り：何時間もかけて時刻表を書き出す、というように興味の強さが過度に強い
 - (4) 感覚刺激への異常：特定の音や感覚に対する敏感さ・鈍感さ



り、感覚過敏は自閉スペクトラム症の患者さんで確認されることが多いといわれています。

「自閉スペクトラム症」とは、他人に興味をもたない、他人とコミュニケーションをとるのが困難といった社会的コミュニケーションの問題と、極度のこだわりの強さを示す行動・興味における問題がみられる疾患です(表4)。感覚過敏を有する自閉症スペクトラム症の患者さんにとって、歯科治療場面はタービンやバキュームの音、ライトの光、薬品のおい、口腔内への異物の侵入・接触など、多くの感覚刺激に溢れており、治療を拒否してしまう患者さんも多くいらっしゃいます。自閉スペクトラム症を発見するための評価ツールとしては、「Autism Spectrum Quotient (AQ, 表1)」などが利用されます。

さんでも、原因が異なれば対応方法も変わってきます。たとえば、長期的に歯科へ通うことを可能にしていくためのアプローチにも、原因によって違いが生じる場合があります。歯科自体が苦手な人に対しては、克服可能な範囲ですこしずつ歯科に関連する刺激や状況に慣れていってもらい必要があります。感覚過敏のあるような自閉スペクトラム症の方でも、同じように苦手な刺激に慣れていくことを1つの目標にしますが、そこに至るために環境調整を行うことや視覚素材を使用して治療の説明を行うなど工夫が必要になってきます。また、不安の問題が背景にある場合には、パニック症や社交不安症の症状の緩和や安定が必須となります。そのため、患者さんが専門機関へ受診していない場合は紹介をすることが望ましいといえます。

今回紹介したさまざまな原因を想定しながら患者さんに対応していただくことで、患者さんの恐怖に寄り添いながら歯科治療を行うことが可能になると考えられます。

おわりに

歯科治療に対して同じ恐怖を抱いている患者